

# インターネットコンテンツセキュリティ プロバイダにおけるサービスの現状

2001年11月15日

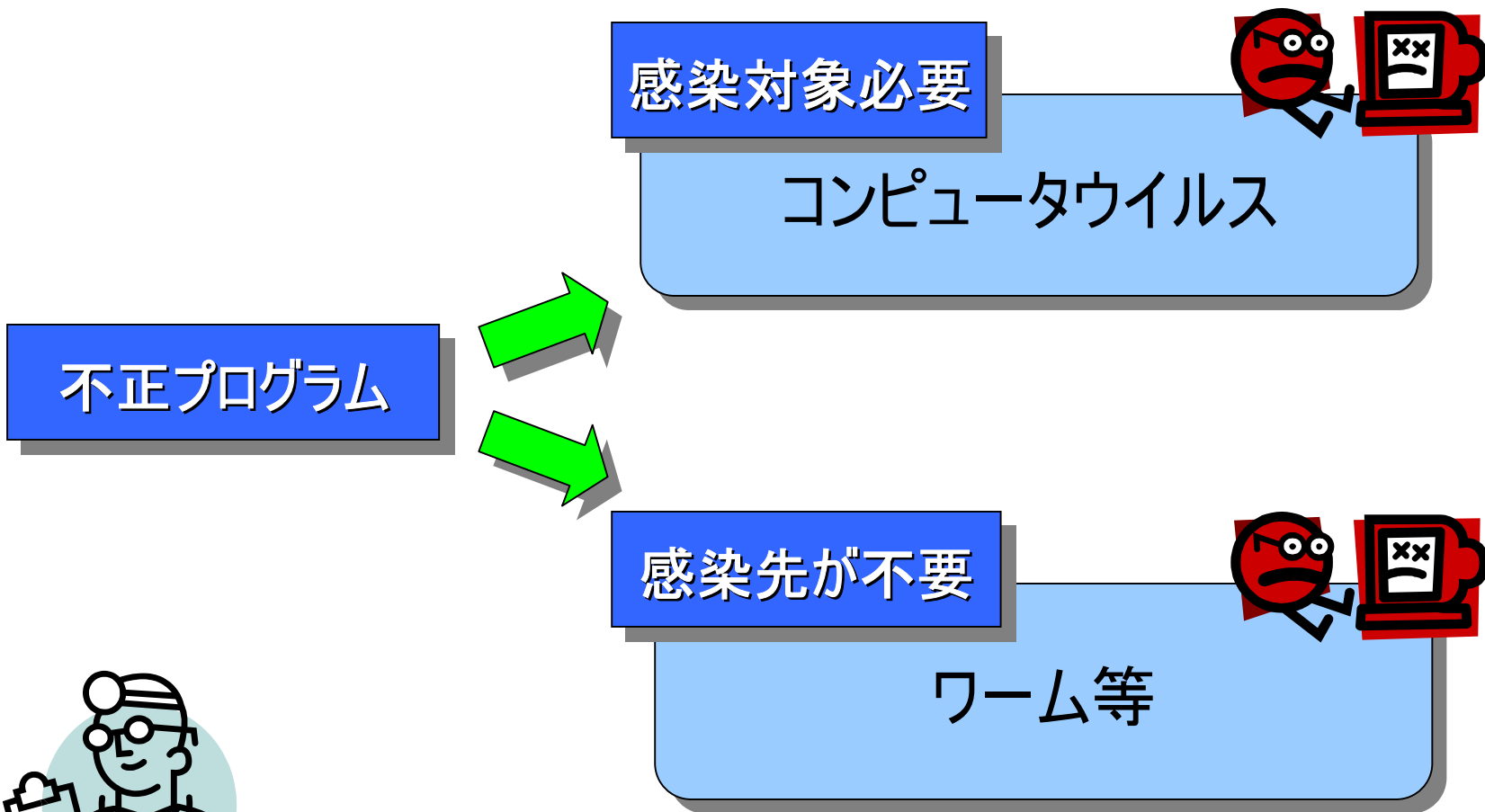
トレンドマイクロ株式会社

# コンテンツセキュリティビジネスに 「商売としての可能性」はあるのか

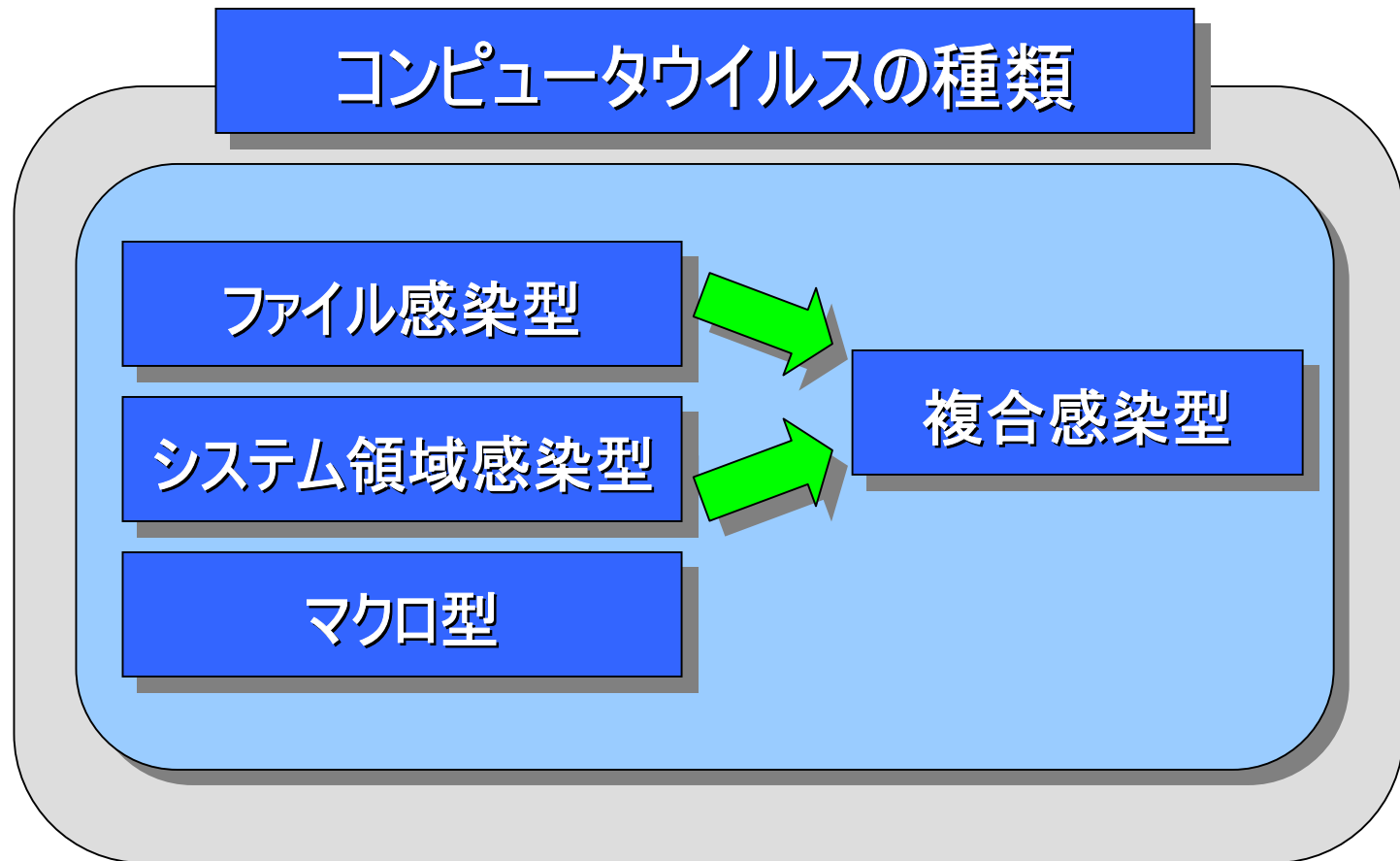
- ＞現状どこまで来ているのか
- ＞今後をどう考えれば良いのか

- ウイルスの最新動向と対策手法の変化
- プロバイダにとっての  
コンテンツセキュリティサービスの意味
- プロバイダによるコンテンツセキュリティサービス  
実例と今後の可能性

# ウイルスとワーム



# ウイルスを分類



# その他の不正プログラム

## ワーム

自分自身の複製をコピーして増殖する性質を持つ不正プログラム

## インターネット型

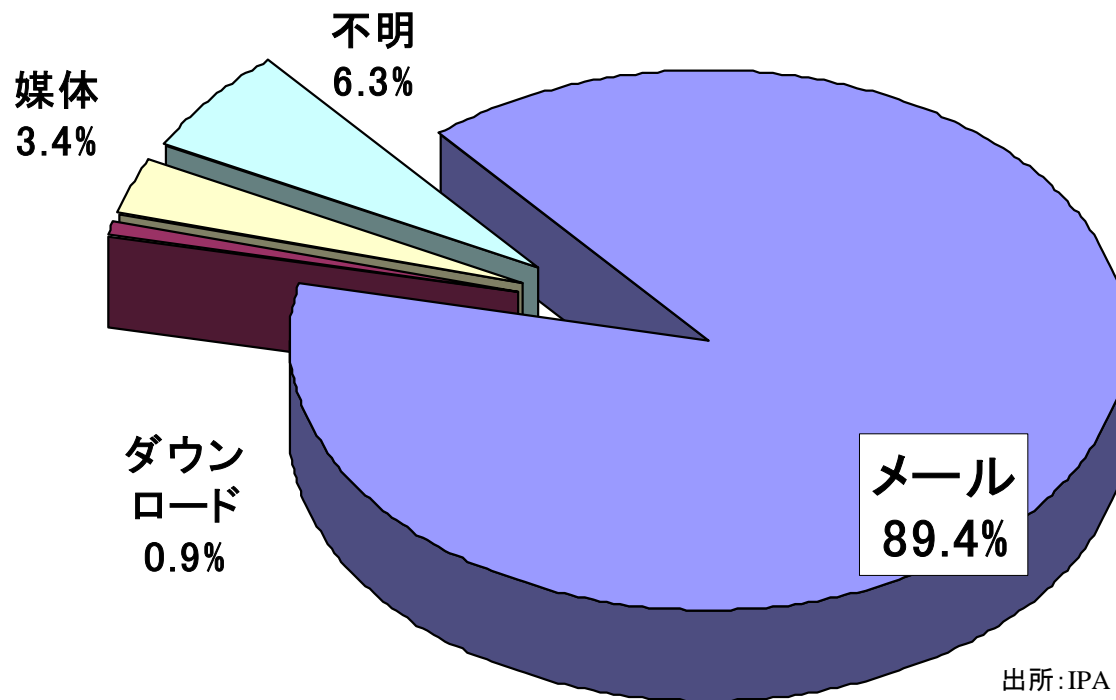
Web閲覧等を行った際に自動的に実行され、直接破壊活動を行う不正なJavaアプレットやActiveXコントロール

## ハッキングツール・DOSツール

パスワード窃盗型  
サーバ/クライアント型

# 感染経路

- 依然としてメール経由が圧倒的



出所: IPA 2001年の合計値

# PE\_NIMDA.Aの実例に学ぶ 次世代の不正プログラム像



# 高い感染速度

- 毎週一度のパターン更新ではもう間に合わない

– PE\_NIMDA.A

- 9月18日に発生

- 9月20日18時

約9万6千件

- 9月20日23時

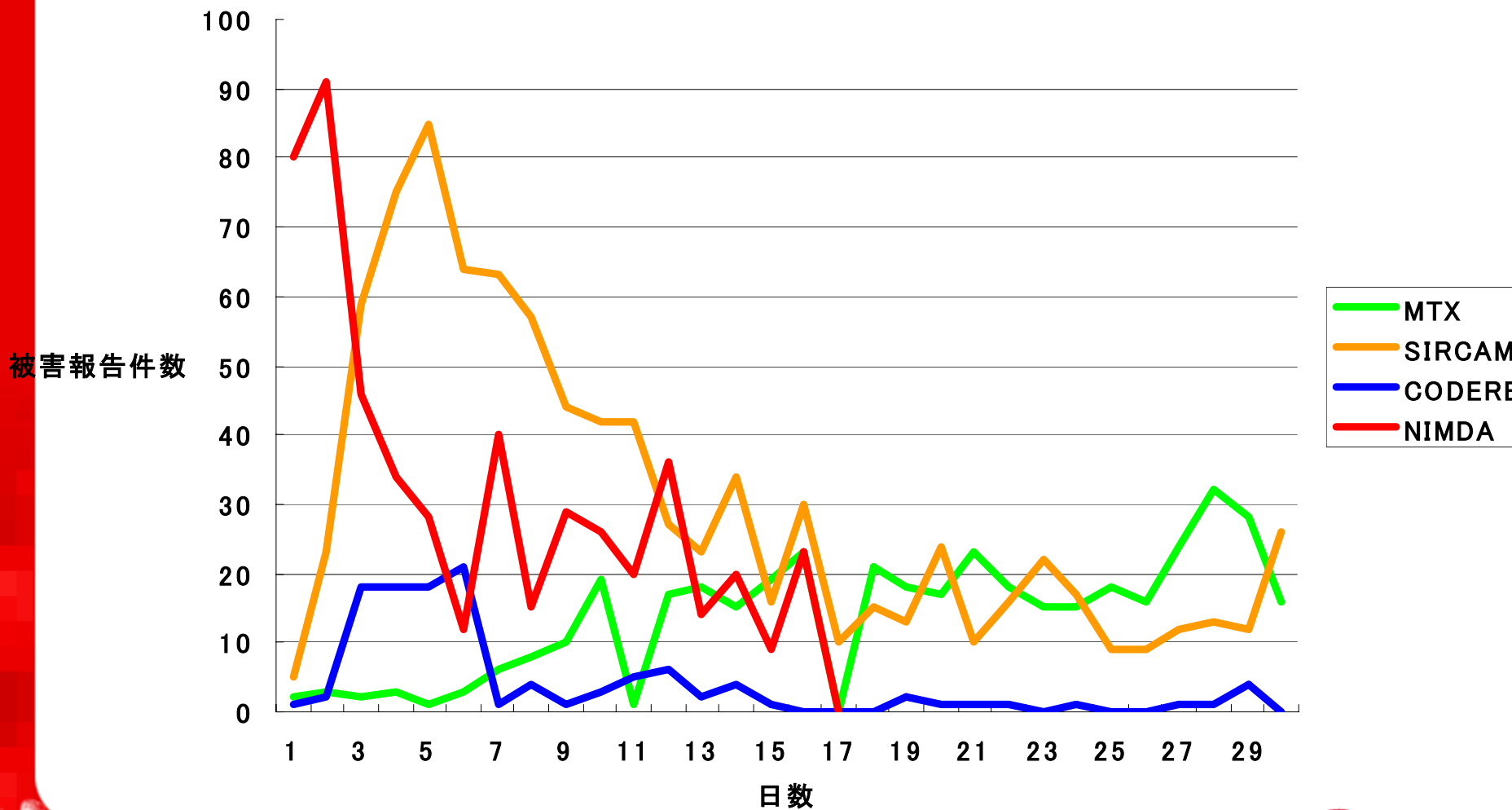
約18万件

- 9月21日午後

「SIRCAM」抜き感染数トップに



# 警報発令後感染報告推移



# 複数の感染経路を確保

- IISのセキュリティホールを利用
  - Webページに不正なJavaスクリプトを埋め込み
- IEのセキュリティホールを利用
  - 改ざんされたWebページを閲覧した場合、不正なスクリプトを自動実行。またはメールのプレビューでウイルスを実行。
- ウイルスファイルをコピー
- ウイルスメールを送信

# 多面的な被害

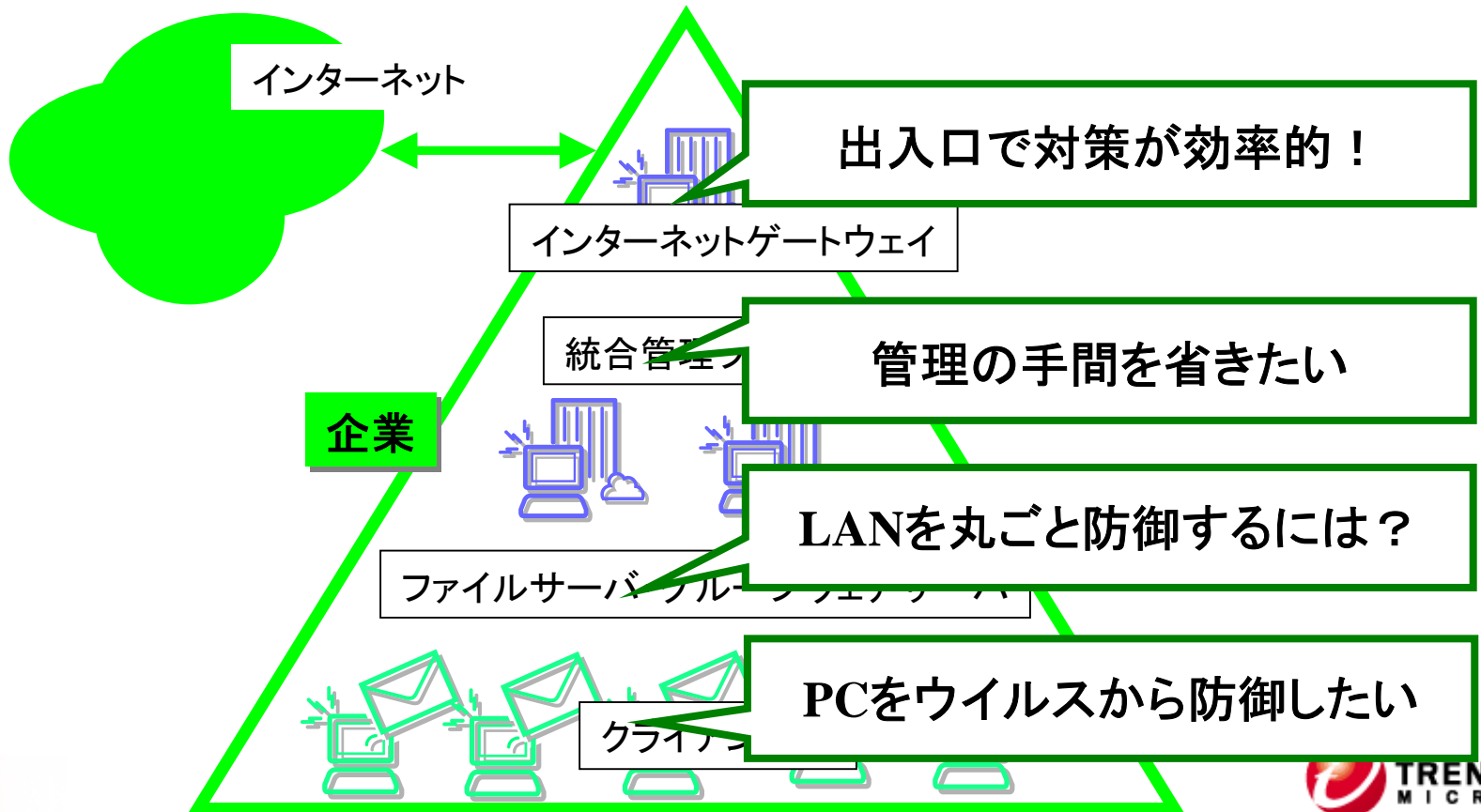
- トラフィック負荷、CPU負荷率の増大、Web改ざん、システムファイル上書き
- IPAのまとめた感染実態
  - 届出数323件のうち、実害数は218件(67.8%)。
  - 実害数のうち113件(約52%)は、ホームページを参照、プレビューしての感染

# 対策方法と 顧客を取り巻く環境の変化



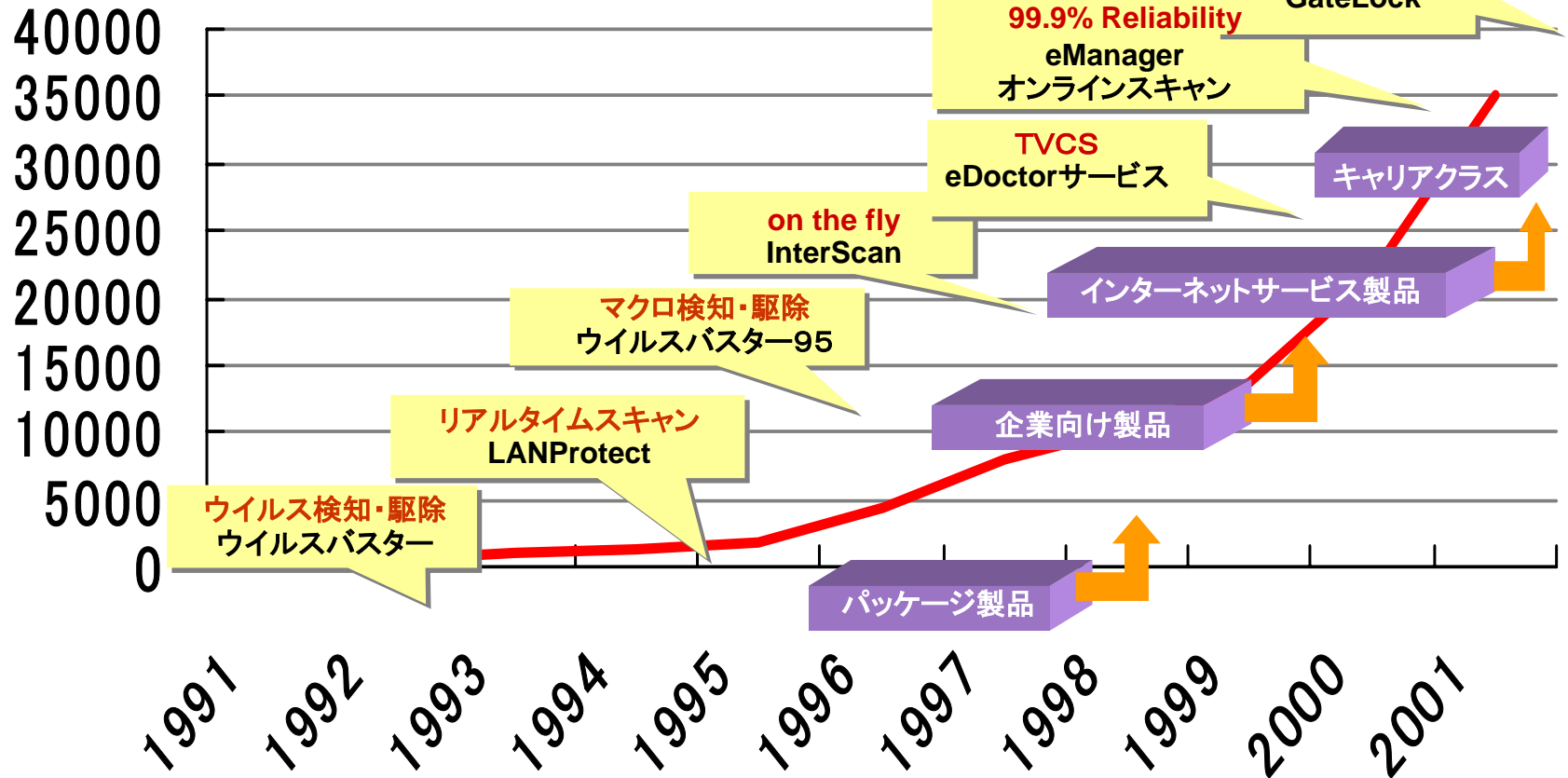
# 従来のウイルス対策

- コンピュータ利用形態の進化に同期



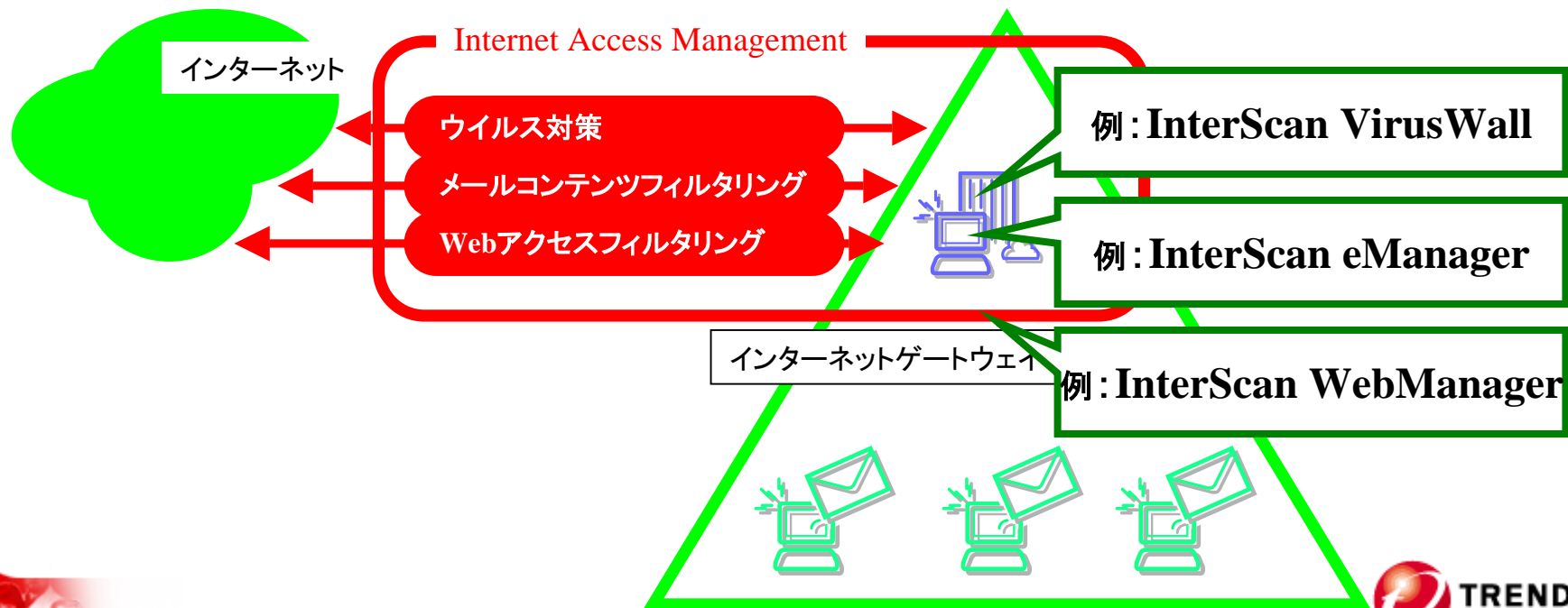
# 対策製品側から見た変遷

単位:千円



# 今後のウイルス対策

- 「コンテンツセキュリティ」の発想
  - 狭義の「ウイルス対策」の範囲を拡張



# 企業にとっての コンテンツセキュリティ対策

- 外部化により運用コストを削減する  
選択肢の多様化

自社構築・運用

○自由度高い

監視サービス

○外部監査の視点導入

ホスティング

○基幹機能含めた外部化

ASP

○必要な時に必要なだけ



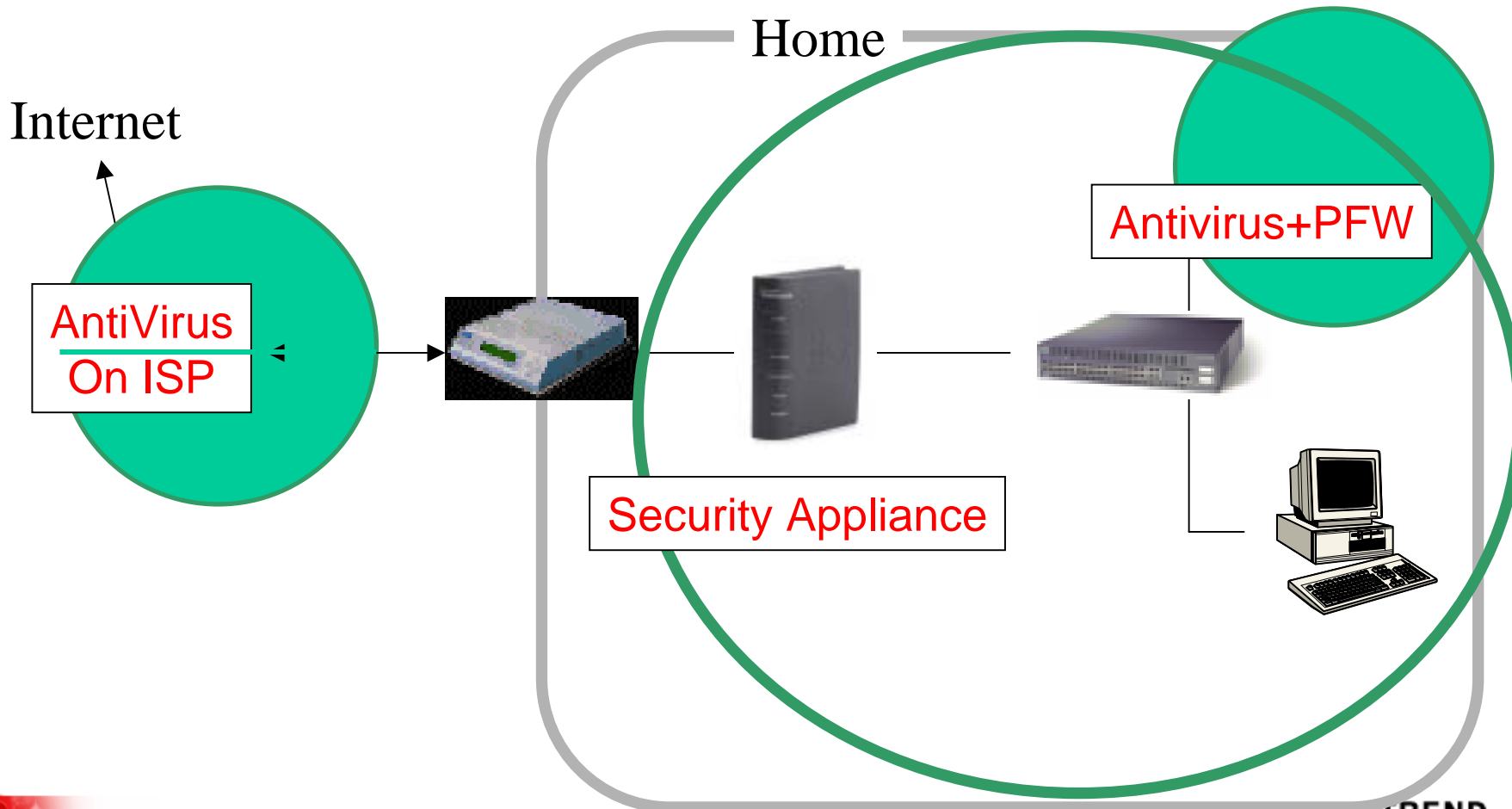
# 個人にとっての インターネット接続リスク対策

- 質の変化：企業の常識が家庭にも必要に
  - 広帯域常時接続の広がり
  - 複数台のPCが家庭内に

複数階層でのウイルス対策・不正アクセス対策  
⇒セキュリティポリシー確立  
⇒ポリシーにあわせたシステム導入と運用

家庭にもセキュリティ管理者が必要に？

# 具体的な選択肢



# プロバイダが コンテンツセキュリティに 取り組む意味



# 受身の姿勢

- 企業において  
「コンテンツセキュリティ対策」が常識に  
⇒「外部化の際は不要」にはならない

これまでの常識: FireWall + VPN + 監視サービス  
⇒「セキュアなデータセンター」

今後: 追加でのメニュー化は不可避

- ・ウイルスチェック (SMTP/FTP/HTTP)
- ・アクセスコントロール (Web、メール)
- ・?

# 攻めの姿勢

- 付加価値提供
  - 有償サービスの追加で収益に貢献
  - 顧客満足度の向上

法人向け・個人向けとも  
「低価格での常時接続」が当たり前になった時代に、  
**ISP/iDCが提供できる価値は何か**  
という視点

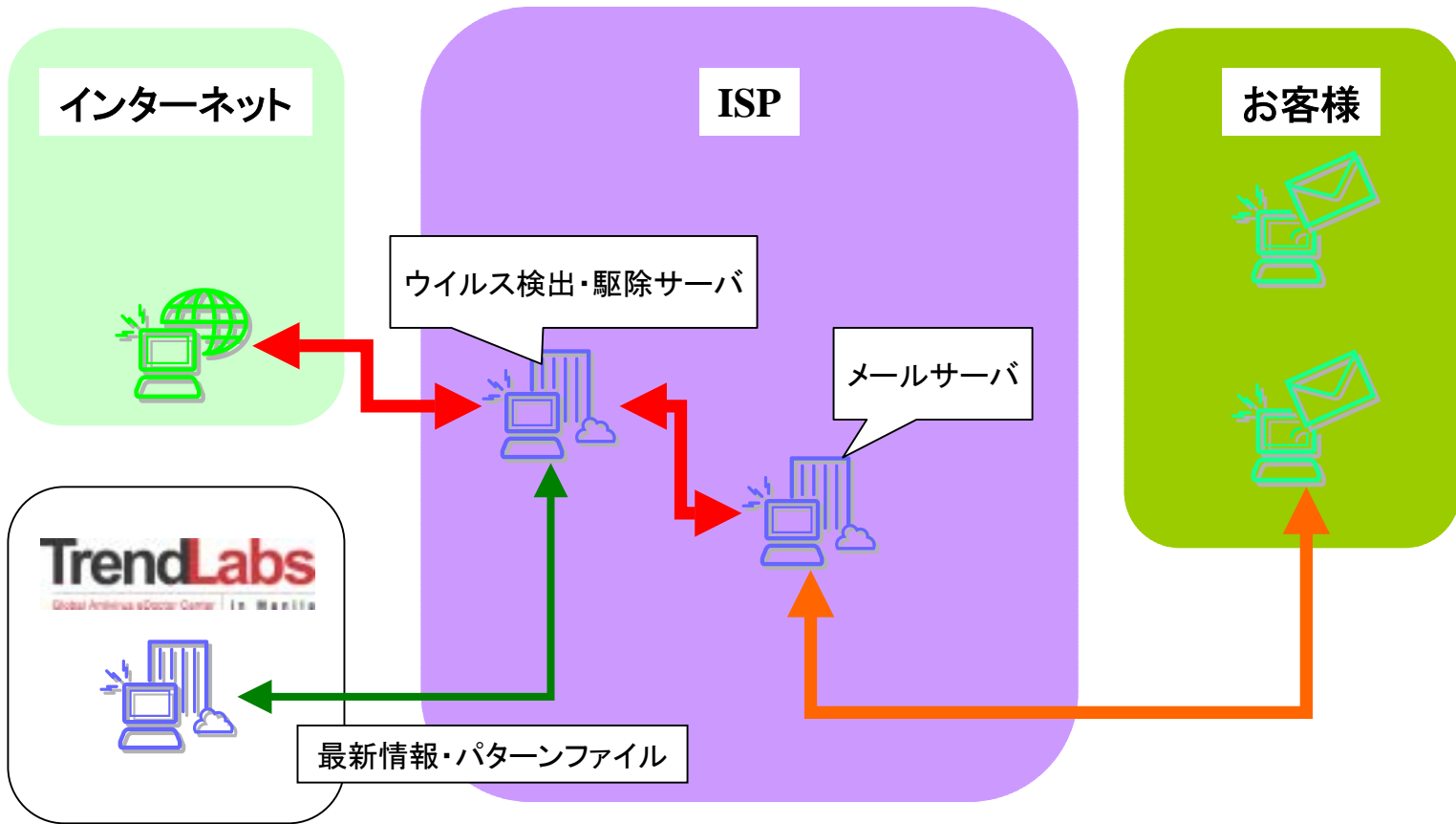
# コンテンツセキュリティサービス 現況と今後



# ISPのセキュリティビジネス展開 実例(法人向け)

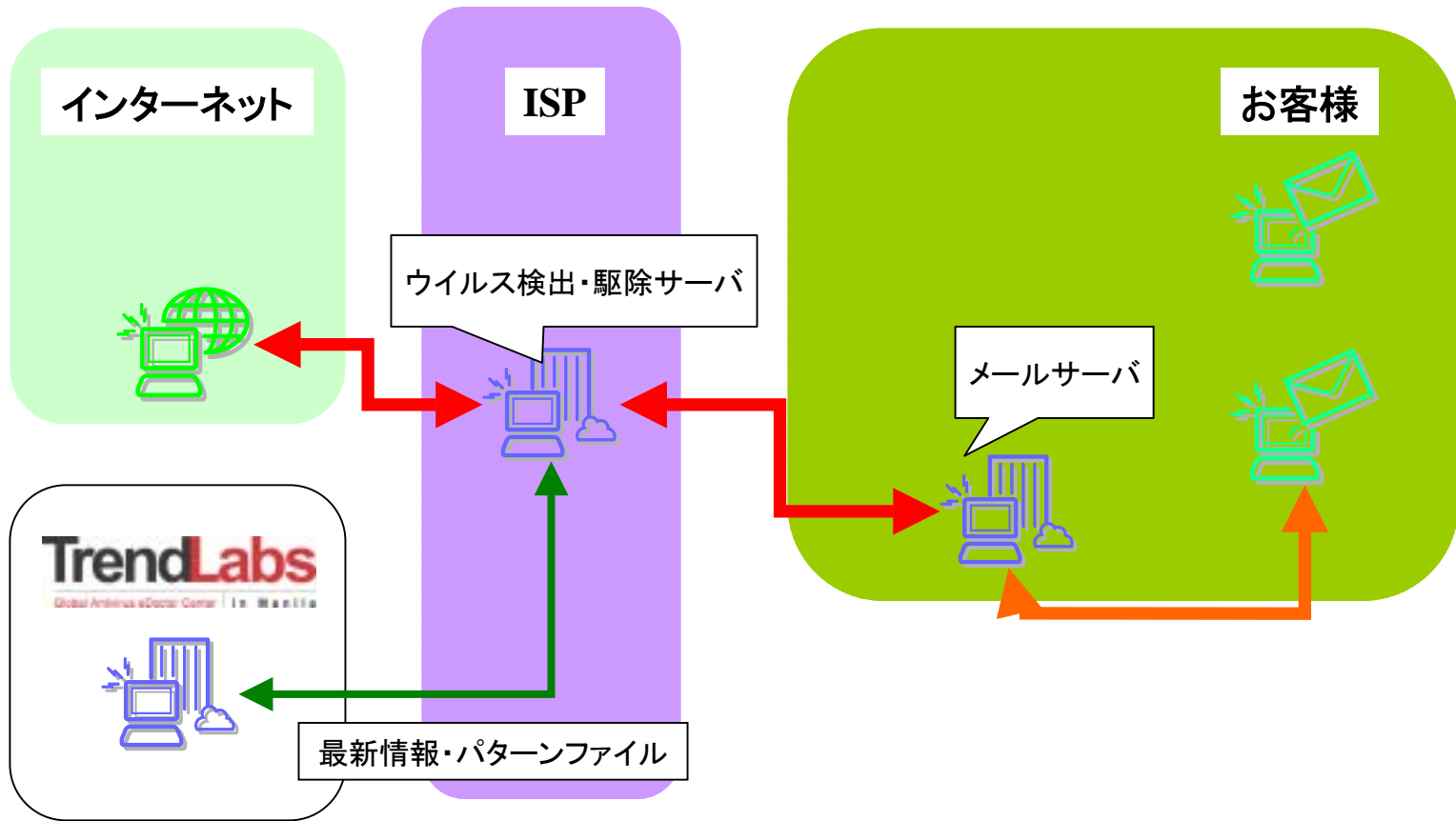
- ウイルスチェックサービスを実施しているサービスプロバイダの例
  - NTTコミュニケーションズ、NTT-ME、NTT-PCコミュニケーションズ、KCOM、日本テレコム、BIGLOBE、ソニー(bit-drive)、日本ユニシス情報システム、日立製作所(ApinetLand)、データステーションズ、IIJ、大塚商会、PSINet、セコムトラストネット、クリティカルパスパシフィック

# 法人向けホスティングケース

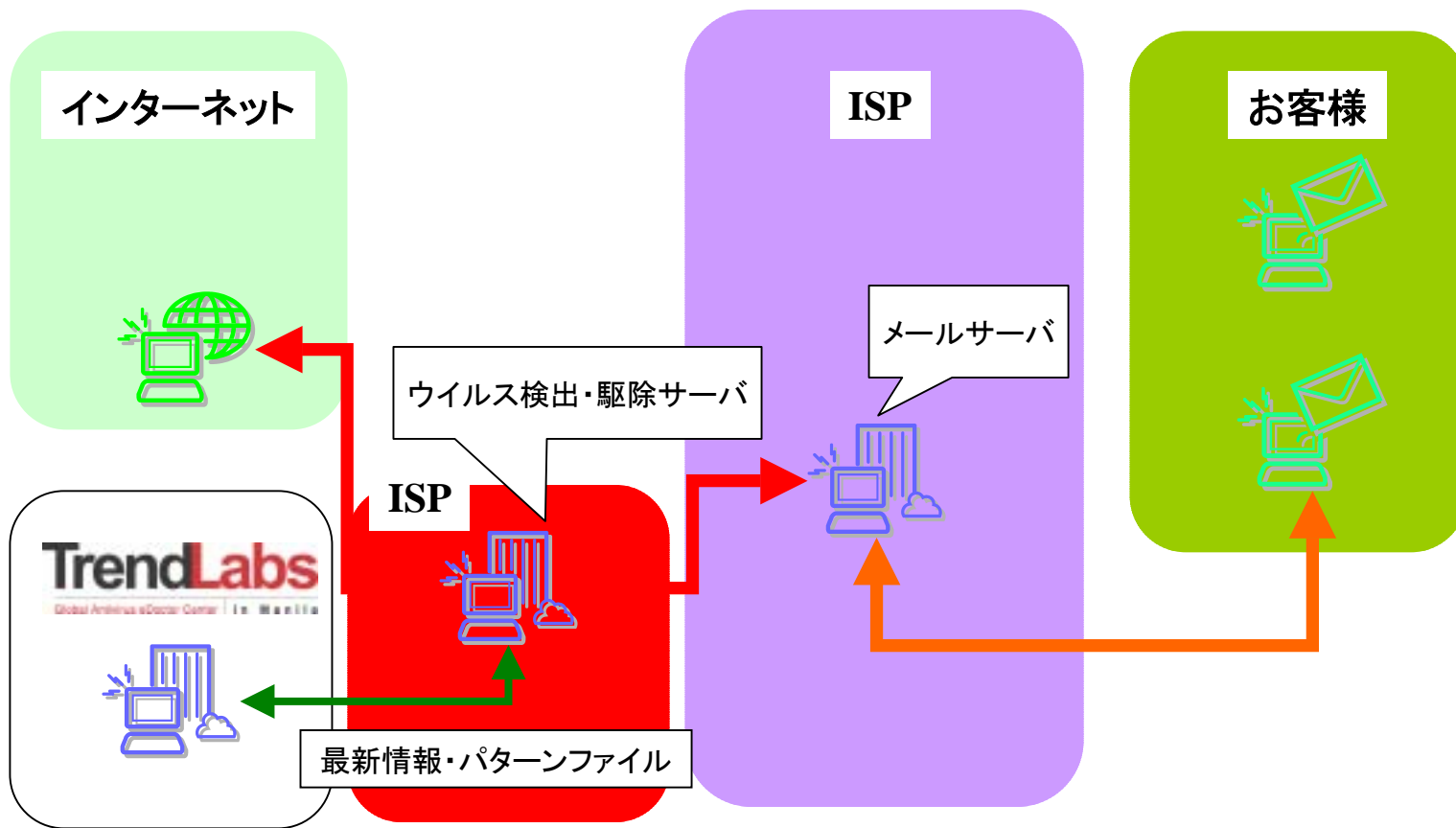




# 法人向け専用線アクセスケース



# ISP間再販またはASPケース



# 大塚商会「アルファメール」での ウイルスチェックサービス例

- ウイルスチェック機能を含んだ  
メールサーバホスティング
  - 送信時・受信時にウイルスチェック
  - 契約社数1万2千超

ウイルス検出・削除の実際

**10月1日～31日 11090件**

**11月1日～13日 16317件**

# ISPのセキュリティビジネス展開 実例(個人向け)

- ウイルスチェックサービスを実施している  
大手ISPの例
  - @nifty、BIGLOBE、OCN、DION、ASAHIネット
  - 既にインターネット全利用者のうち、  
**1,000万人以上がサービス対象に**

その他各社も、まもなくサービス開始予定  
⇒個人向けウイルスチェックメニューの常識化

# @niftyでの ウイルスチェックサービス例

- 「ウイルスバスター for @nifty Mail」
  - 送信時・受信時にメールウイルスチェック
  - 200円/月の有償オプションサービス
  - 2001年8月7日開始

現状、ほとんど告知・宣伝を行っていないが  
サービス加入者数は順調に増加中

**約2ヶ月経過の時点で3万人を突破**

# 今後の コンテンツセキュリティサービス

- メールウイルス対策からの拡張
  - SMTP以外にもFTP/HTTPでウイルスチェック
  - 「コンテンツフィルタリング」の発想
- メールホスティングからの拡張
  - iDC(ハウジング、ストレージ...)
- サービス分業の進行
  - ISP間での分業
  - MSPによるセキュリティメニュー

# まとめ

- コンテンツセキュリティ対策についても外部化の流れは加速する
  - 不正プログラムの質の変化
  - 個人向け・法人向けともISP/iDCが重点的に取り組むに値する課題
  - 先行グループは既に「次の一手」を模索している段階に到達済み

**成長性の高い事業機会**

<http://www.trendmicro.co.jp>